



発行責任者

特定非営利活動法人

相模原市障害児者福祉団体連絡協議会
(通称：NPO 法人れんきょう)

会長 鈴木 秀美

相模原市中央区富士見 6-1-20 (あじさい会館内)

TEL&FAX 042-755-5282 (直通)

さーくる 障害理解

検索

題 字「わ」 相模原市長 本村 賢太郎

《『障害者週間のつどい』 イベント案内》

令和 7 年度の「障害者週間のつどい」は 12 月 7 日 (日) にあじさい会館ホールにて開催の予定です。

第一部は「心の輪を広げる体験作文」と「障害者週間のポスター」の優秀作表彰式です。入賞者には市長から表彰状が授与されます。また、作品はあじさい会館のロビーに展示される予定です。是非ご鑑賞ください。

第二部は、昨年に続き映画の上映となります。今回の映画のタイトルは「梅切らぬバカ」で自閉症の息子と母親の生活を描く人間ドラマです(出演は加賀まりこと塚地武雅等。)多数の方々の参加をお待ちしています。

《ほかほかふれあいフェスタ 2025 のお知らせ》

ほかほかふれあいフェスタ 2025 は 10 月 11 日 (土) に健康フェスタ、パラスポーツ体験会との共同で開催されます。会場は健康フェスタがウェルネスさがみはら、ほかほかふれあいフェスタがあじさい会館とウェルネスさがみはら前広場、パラスポーツ体験会がけやき体育館となります。あじさい会館ホールで開かれる式典が 10 時にスタートします。その後、ホールではヒップホップダンス、手話ダンス、よさこいソーラン節、コーラス、鼓笛演奏が実施されます。あじさい会館 6 階ではパラスポーツ体験会、e- スポーツ体験会、点訳体験等が行われます。

ウェルネスさがみはら前広場では、バンド演奏、よさこいソーラン節、阿波踊り等が披露されます。また、多くのバザーや模擬店(焼きそば、玉こんにゃく、ポップコーン、野菜、パン、フランクフルトソーセージ、コーヒー)が出店されます。れんきょうは加盟団体のパネル展示を行います。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

また、11 月 29 日 (土) 午後には『障害者週間キャンペーン』として相模大野駅北口広場で、冬のほかほかふれあいフェスタが開催されます。バンド演奏、よさこいソーラン節、ヒップホップダンスが実施され、障がい福祉関連のチラシを通行人の皆様に配布する予定です。

《新成人を祝う会（令和7年度）案内》

本年度の「新成人を祝う会」は令和8年1月18日（日）にけやき会館・大樹の間で開催予定です。主催者は「新成人を祝う会」（甘利智明会長）です。従来どおり多くの方々のサポートを得て新成人の方々の門出を祝いたいと思います。

《令和7年度福祉施策懇談会の開催案内》

本年度の福祉施策懇談会は令和8年3月15日（日）にあじさい会館6階の展示室で開催する予定です。

従来は10～12時の2時間での開催でしたが、今回から延長希望があったため、午前9時から12時までの3時間の対応をしていただくことになりました。

今後は、多くの障がい者団体にアンケート（現在の問題点、市への要望事項等）を実施してその回答によって集まった要望事項を中心とした懇談会を開催します。

アンケートは10月初旬に発送予定ですのでよろしくお願いいたします。

《市議団との懇談会開催報告》

本年度も市議団との意見交換会が下記のように行われました。

公明党とは5月8日（木） 市民会館4階けやきの間にて11時から約1時間

公明党側；加藤市議会議員他3名

連協側；鈴木会長、古山会計、榛沢、町田の4名

自民党とは6月16日（月） 市民会館第2中会議室にて14時半から約40分間

自民党側；県議会議員2名、市議会議員多数

連協側；鈴木会長、古山会計、町田の3名

立憲民主党とは7月29日（火） 市民会館会議室にて16時から約40分

立民側；大塚衆議院議員と、市議会議員数名

連協側；鈴木会長、古山会計、榛沢、町田の4名

共産党とは8月7日（木） 市役所2階会議室にて11時から約1時間超

共産党側；羽生田市議他2名

連協側；鈴木会長、古山会計、榛沢、町田の4名。

懇談する時間が短い関係で、市長懇談会で要望している事項のうち、車いすと杖の会、

あしたば会からの要望事項の数点に絞り、提起しました。

○安全な歩道の確保について。

大きな空き地に家を建てる申請が出た場合になぜ安全な歩道の確保をする事の指導と、近隣住民への説明と理解を業者に任せっきりで、担当の職員が確認をしないのか？

- ライドシェアの件。あじさい号廃止後、ライドシェアを含め、障がい者、移動困難者の移動手段の問題解決について
 - 重度障害者福祉手当金の撤廃を撤回について。手当金が無くなると非常に厳しく生活できない人がおり、撤廃しないでほしい。
 - 精神障がい者の虐待とネグレクトについて。今年4月に虐待とネグレクトで亡くなった人がおり、適切な治療がなされたら助けられたのでは？障がい者の差別を止めて。
- 上記の内容で問題解決に参加された議員さんと話し合いましたが、話し合いの時間が少なく、理解はしてもらえたようです。

《障害者施策の意見交換開催報告》

本年度の障害者施策の見直し意見交換会について

令和7年8月13日(水)午後2時～午後4時。ウェルネスさがみはら7階視聴覚室置いて。
出席者は、市側は健康福祉局16名、障がい者および関係団体側は20数名。

本年度からの新規、変更になる事項の説明の後、活発な質問とやり取りが行われた。

「お役所目線」で考えた「当事者目線」

相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会） 榛澤 昌高

「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」が令和5年4月1日に制定されました。その条例を一部改正したものが、令和7年10月1日に施行されます。この条例を皆さんはご存じでしょうか？一般の方だけでなく、障がい当事者や関係者にすら、あまり知られていません。

平成28年に起こった「津久井やまゆり園事件」以降、県は障害者施策の見直しに着手しました。その後、殺傷事件だけでなく、「中井やまゆり園」など県立障害者支援施設では、おぞましい虐待事件が起こっていたことが次々と発覚し、重度障がい者を取り巻く課題は、もっと根深くて深刻だったことが分かってきました。

「平成28年7月26日、津久井やまゆり園において、19名の生命が奪われるという大変痛ましい事件が発生しました。このような事件が二度と繰り返されないよう、県議会の議決を経て「ともに生きる社会かながわ憲章」を定め、その実現を目指すとともに、津久井やまゆり園の再生と当事者目線の障害福祉の推進に取り組んできました。障害者の立場に立って、その望みや願いを尊重し工夫しながら支援することで、障害者や関わる人々の喜びにつながり、その実践こそが「当事者目線の障害福祉」であるとの考えに至り、条例の推進が「ともに生きる社会かながわ憲章」の実現につながるものと確信し本条例を制定しました。」

「当事者目線」とは言い難く、詭弁や言葉遊びでしかないように感じてしまいます。

というのは、神奈川県障害者施策審議会で「相模原市は市内の障がい者が反対しているのに障害者手当の廃止を強行しようとしています」。これは県の『当事者目線』の方針に反する施策ではないですか？でしたら手当廃止を思いとどまらせるべきではないでしょうか？」と質問したら、県の答弁は「これは相模原市独自の施策で、廃止するかどうかは相模原市が決めることです。ただ当事者である委員が、そう考えるのであれば、手当廃止の決定は当事者目線ではないと思います」と、微妙な言い回しではありますが、当事者目線ではないと認めました。今まさに「当事者目線」ではないどころか、当事者をどん底に突き落とすような施策が行われようとしているのに、そのまま実行されるのであれば、「当事者目線の障害福祉条例」は何のために制定されたのでしょうか？

「重度障害者等福祉手当が廃止されたら、生活が立ち行かなくなりますか？」昨年、相模原市が市内障がい者に行ったアンケートの質問。「YES」と答えた方は“39.4%”。生活が立ち行かなくなると答えている方が約4割、これは、とても重い数字です！

また、もう一例。8月3日、相模原市内で「なぜ、長生村(ちょうせいむら)事件は起こったのか？」というシンポジウムが開かれました。

この長生村事件とは、以前神奈川県に住んでおられた重度の知的障がいを持った男性の父親が、「もう息子を家族だけで支えることは出来ない」と「中井やまゆり園」へ息子さんを入所させることを希望しましたが受け入れてもらえず、千葉県長生村に引っ越しました。しかし、息子さんの面倒をみることに限界が来て、自宅で息子さんの首をコードで絞めて殺害してしまいました。もし「中井やまゆり園」への入所が認められていれば、この事件は起こらなかったのではと、そのシンポジウムで聴きました。

なぜ入所出来なかったか？県が令和4年4月、「中井やまゆり園」への新規入所受け入れを停止したからでした。自分の子供に手をかけてしまった父親は、どんな苦しい思いで手をかけたのか？自分の父親に命を奪われてしまったご本人も、どんな苦しい思いで亡くなっていったのか？大変心が痛みます。

本来なら、重度の障害者も、障害者支援施設へ入所するよりも地域で暮らせるようにした方が良く私も思います。しかし、今はまだ、地域で重度の障害者を受け入れる支援体制が出来ていません。その段階では、家族が支えるにも限界がありますので、支援施設への入所を停止するという判断は本当に正しかったのか？もし入所停止していなければ、最悪の結果にならずに済んだのではないのでしょうか？

ご家族も苦勞を抱えているという意味で当事者です。もし県が「当事者目線」の施策を進めているのであれば、地域に支援体制が整っていない段階で、新規入所を停止したのは間違った判断で「当事者目線」で施策を行っていない証拠だとも思いました。

役所の方たちが「当事者目線」で考えるというのは難しいことだと思います。というより「当事者目線」で考えるということは不可能だと思います。それは、逆に私たちが「お役所目線」にはなれないのと同じです。しかし、役所の方たちは、あまりにも気軽に「当事者目線」「当事者目線」と連呼します。当事者の一人としてずっと違和感がありました。神奈川県障害福祉

施策が、「お役所目線」で考えた「当事者目線」ではなく、本当の「当事者目線」になる日は来るのでしょうか？

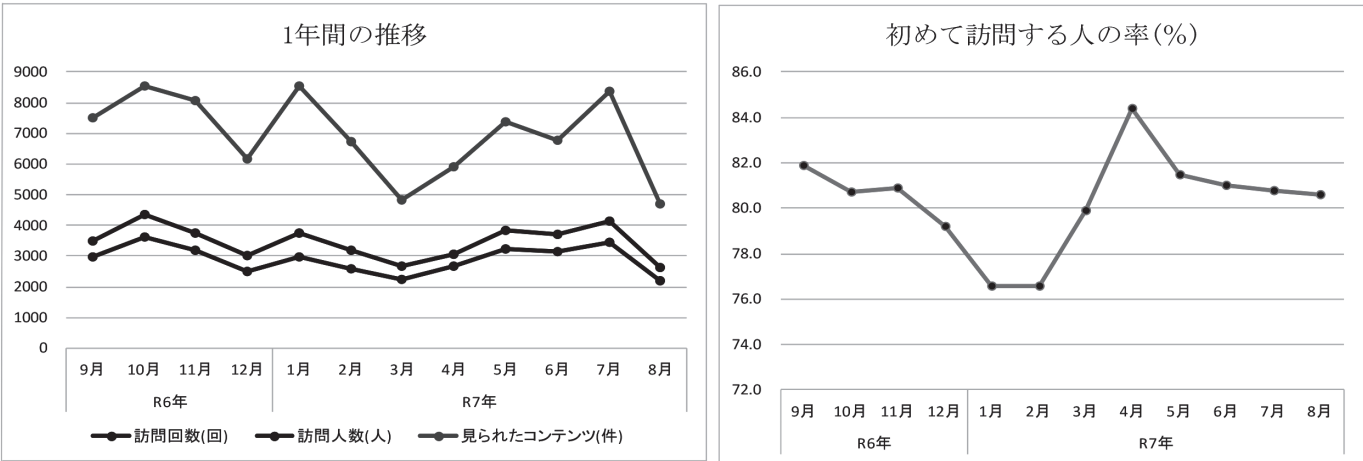
《「さーくる」の最近のアクセス状況報告》

最近のアクセス状況を下表のとおりご報告します。

	R6 年 9 月	10 月	11 月	12 月	R7 年 1 月	2 月
訪問回数（回）	3497	4337	3773	3004	3745	3198
訪問人数（人）	2963	3603	3175	2488	2988	2569
見られたコンテンツ（件）	7515	8534	8071	6157	8540	6716
初めて訪問する人の率（％）	81.9	80.7	80.9	79.2	76.6	76.6

	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
訪問回数（回）	2671	3069	3856	3697	4151	2612
訪問人数（人）	2247	2663	3244	3130	3462	2204
見られたコンテンツ（件）	4834	5898	7370	6774	8379	4720
初めて訪問する人の率（％）	79.9	84.4	81.5	81.0	80.8	80.6

「さーくる」の1年間の推移です。



さーくる 障害理解

検索

《身体障害者作品展開催案内》

特定非営利活動法人相模原市難聴者協会・土の会 土屋 和代

今年も障害者作品展の季節が巡ってきました。

12月5日（金）の午後～7日の16：00迄、あじさい会館6階展示室にて、市内の障害児者による力作が市の障害者週間の一環として展示されます。

私共 NPO 法人 相模原市難聴者協会・土の会でも会員の力作を毎年出展しています。相身連のお仲間に入れて頂いてから、毎年参加しています。（写真は10年前の展示の様子です）

今年も皆様に作品を見て頂けるのを励みに準備しています。

私共聴覚障害者、特に中途失聴や難聴者にとって、日々の暮らしの中での手仕事は、孤独になりがちな心境を支えてくれる数少ない趣味になっています。

手仕事は聴こえない事で日常の会話ができず、家族の中でも孤立しがちな気持ちを落ち着かせてくれ、作品の完成時は達成感で気持ちを前向きにしてくれます。

今は、テレビのドラマ等には字幕が付き、内容が分かるので大変ありがたいですが、バラエティー番組等は話が速すぎて、例え字幕がついても、読み切れず楽しむ余裕もありません。映画も洋画は字幕があるので楽しいですが、邦画は字幕付きは稀なので、見たいと願っても字幕が無いので叶いません。

そのような環境にある私共にとって、皆様に見て評価して頂ける場として、この作品展は日々の暮らしの励みになっています。また、作品を通じ、他団体の方々との交流も楽しみの一つになっています。

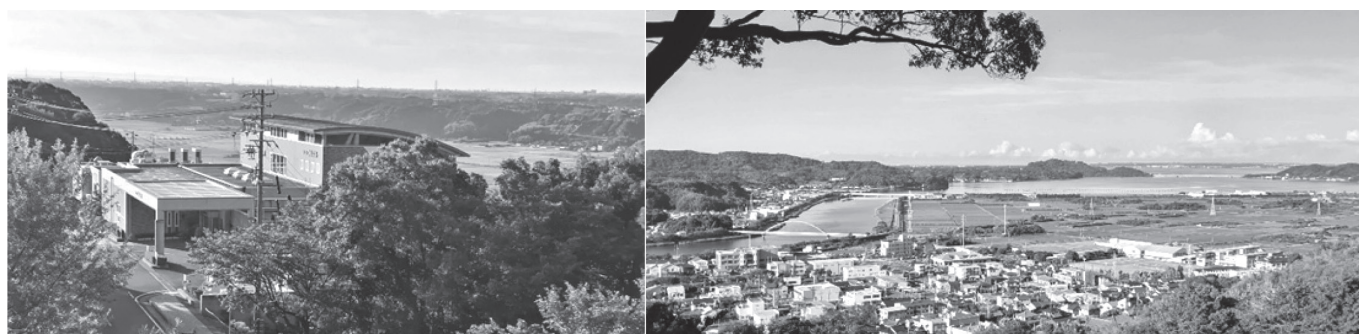


《車いすと杖の会

令和7年度奥浜名湖・焼津魚センター福祉バスの会》

車いすと杖の会事務局 町田 紘一

- 1 日目；光ヶ丘⇒市民会館前⇒足柄 SA ⇒駿河湾沼津 SA（自由昼食）⇒三ヶ日 IC
⇒国民宿舎奥浜名湖（泊）
- 2 日目；国民宿舎奥浜名湖⇒館山寺 IC ⇒焼津魚センター（自由昼食）⇒足柄 SA
⇒市民会館前⇒光が丘（解散）



会員と付添、協力団体のメンバー 20 名で 7 月 13, 14 日にリフト付き神奈中観光バスで静岡県
の奥浜名湖、焼津魚センターの旅に出かけました。当日は梅雨明け宣言が出ていない快晴で
暑い日でした。昨年の一泊研修の旅は 7 月 28 日 29 日松代温泉と軽井沢の旅でした。

今まで利用したホテルは“かんぽの宿”が殆どで車いす利用者にやさしい宿でしたが、かん
ぽの宿が民間に移譲され、バリアフリーの部屋も浴槽付きの高額な部屋に改装。足腰が不自
由な人が利用できたリフト付き家族風呂もリフトが撤去され、高額な別料金になり、使え
ない施設になってしまいました。大風呂や部屋風呂が利用できない障がい者は家族風呂を
無料で使えるのは当然と思っていましたが、リフトもなく有料となり、旅行の楽しみが半
減されました。おむつ利用者は清潔を保つ必要があるため、入浴や清拭が必須です。
さらに、車いす利用者が使えるバリアフリーの部屋も削減され、車いすの団体が泊
まれるホテルを探すのは大変な状況です。今回は国民宿舎で、バリアフリーの部屋
があるとの事で、奥浜名湖を選びました。バリアフリーは一部屋で、畳スペースと
ベッド 2 台があり、比較的広いスペースの部屋でしたが、予算の関係と、複数の
車いす利用者があるため、この部屋は介助者など 5 名の方に利用してもらいま
した。車いす利用者はベッド部屋を使ってもらいましたが、洗面所は入口が狭く段差
もあり、車椅子では使えない状態でした。その為、洗面、歯磨きなどは、バリア
フリーの部屋の洗面や、ロビーにあるトイレの洗面所を使ってもらいました。

高齢と車いす利用者の関係で、本来の旅の楽しみである、観光地やレジャー施設に寄
り、ホテルのお風呂と楽しい食事を頂くという予定を組み込むことが出来ず、国民宿
舎に直行という

事で、元気な人には物足りない旅だったとの声もありました。それでも、バスの中で、会長がゲームで集めた可愛い買い物バッグやストラップなどの景品、有志から差し入れのお菓子を頂き、昨年も一緒だったバスガイドの楽しいお話を聞きながら思い出に残る旅が出来ました。

国民宿舎奥浜名湖は山側の新東名高速と海側の東名高速の中間にあり、奥浜名湖や浜名湖が一望でき、上皇、上皇后様が訪れ読まれた歌碑のある公園も隣接しており、自然豊かな場所でした。到着した日は近くの神社でお祭りがあるとの事。会長と車椅子2名、数名の付添者が急坂を下り、お祭りを見学、帰りは登り坂、電動車椅子の電池が切れ大変な思いをしたとの話も。夕食は普段食べられないほどのご馳走を頂き、食後はカラオケを楽しみました。

帰りは東名高速で焼津魚センターへ、何回か利用した場所でもあり、勝手知ったる人もおり、魚やみやげ物を買う人、回転寿司に入るグループや、宿の朝食でお腹が一杯の人は、炎天下かき氷やソフトクリームなど。足柄SAでのトイレ休憩後、渋滞もなく、楽しかった思い出を胸に帰路に着きました。ありがとうございました。

これからも、無理な行程は計画できず、移動が厳しい障がいを持つ車いす利用者にとって宿探しや観光地探しが難しく、会員の高齢化もあり、一泊の旅は、今回が最後かなとの話に、日帰りでもいいからぜひ旅の計画をしてとの意見も多く聞かれた旅でした。次回は可能であれば、家に閉じこもりにならないよう、仲間同士、同じ目線での話が出来る日帰りの旅を計画したいと思っています。今回も福祉バスの利用が出来有難うございました。



《事務局たより》

《令和7年度冬期受託事業販売協力依頼》

毎年恒例の受託販売にご協力をいただきありがとうございます。今年度も11月4日から長崎ちゃんぽん麺・皿うどん詰合せ、うどん、全粒粉そうめんの販売を開始いたします。

年2回の売り上げの一部を会運営資金にあてておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

何卒、当協議会の主旨、目的を再度、ご理解いただきまして、格段のご協力の程よろしくお願いいたします。

- ① ちゃんぽん・皿うどん詰め合わせ (N-1) (箱入り) ……れんきょう販売価格 ￥2,500
(長崎ちゃんぽん麺 100g × 4 袋 スープ 4 袋 長崎皿うどん麺 60 g × 4 袋 スープ 4 袋)
- ② 《新商品》御彩ちゃんぽん (NS-5) ……標準小売価格 ￥2,900 円
(長崎ちゃんぽん麺 100g × 5 袋、スープ 5 袋、調味油 5 袋、具材 5 袋)
- ③ 島原のれん (VS-45) (箱入りうどん) ……れんきょう販売価格 ￥3,200
(1260g 詰 90g × 14 束) / 手延べうどん (丸) 90g × 7 束・手延べうどん (平) 90g × 7 束
- ④ 島原小町 (ES-33) (箱入り全粒粉そうめん) ……れんきょう販売価格 ￥2,800
(50 g × 18 束)

※販売期間：令和7年11月4日～令和8年1月30日

ちゃんぽん皿うどんセット①②の受注は12月10日で打切りさせていただきます。

※販売場所：商品お渡し場所 あじさい会館内4階 NPO 法人れんきょう事務所

※販売時間：午前10：00～午後4：00 (月曜日～金曜日)

※お問合せ：NPO 法人れんきょう事務所まで。電話 042-755-5282

《新車紹介セールご協力のお願い》

～ (株) クライム社様より新車購入紹介セールのお知らせ～

対象車種：乗用車、ライトバン、RV、トラック

対象メーカー：日産、ホンダ、マツダ、三菱、ダイハツ

新車購入の成約前に必ず NPO 法人れんきょう事務所まで連絡をお願いいたします。

❖ ご協力いただいた方には、協力手数料をお支払いいたします。

詳細は NPO 法人れんきょう事務所まで (042-755-5282)

羽田幸江様、鎮守健一様よりご芳志をいただきました。

ありがとうございました。

12月3日～9日は障害者週間です。

区誕生15周年記念

相模原市障害者週間のつどい

～共にささえあい 生きる社会～

2025 **12/7** (日)

開場13:00／開演13:30

入場無料

相模原市立あじさい会館1階ホール

(相模原市中央区富士見6-1-20)

第1部 13:30～

「心の輪を広げる体験作文」

「障害者週間のポスター」

入賞者表彰式

手話通訳、要約筆記あり

第2部 14:15～

映画上映

『梅切らぬバカ』

日本語字幕、音声ガイドあり

バリアフリー上映

申込はこちらの
二次元コードから⇒



電話・ファクスの場合
はれんきょうへ
れんきょう

042-755-5282

氏名と参加人数をお伝えください

申込期間11月1日～12月4日



加賀まりこ 塚地武雅

梅切らぬバカ

原作：いっけい 監自：金子 金澤 渡辺
脚本：金子 渡辺 監自：金子 渡辺 脚本：金子 渡辺
演出：金子 渡辺 脚本：金子 渡辺 監自：金子 渡辺

大きな梅の木に見守られ、母と息子は今日も生きる。ゆっくりと、丁寧に。
人と人がつながり、共に生きることの喜びを描く。

山田珠子は、息子・忠男と二人暮らし。毎朝決まった時間に起床して、朝食をとり、決まった時間に家を出る。庭にある梅の木は伸び放題で、隣の里村家からは苦情が届いていた。ある日、グループホームの案内を受けた珠子は、悩んだ末に忠男の入居を決める。しかし、初めて離れて暮らすことになった忠男は環境の変化に戸惑い、ホームを抜け出してしまふ。そんな中、珠子は邪魔になる梅の木を切ることを決意するが・・・。

©2021「梅切らぬバカ」フィルムプロジェクト



問合せ先 高齢・障害者福祉課 電話042-707-7055 (直通)
ファクス042-759-4395

協力 特定非営利活動法人
相模原市障害児者福祉団体連絡協議会 (れんきょう)